

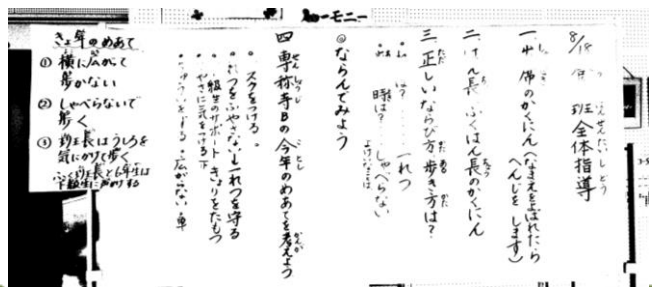


### 登校班指導 8/18

今年度、1回目の登校班指導を行いました。各班の並び方や、ルール、めあてについて確認しました。感染症対策、ということもあり、ルールを変更した部分がありますので、保護者の皆様にもお伝えします。

- ① 班長を先頭に1列で並ぶ。(以前は2列)
- ② 余計なおしゃべりはしない。

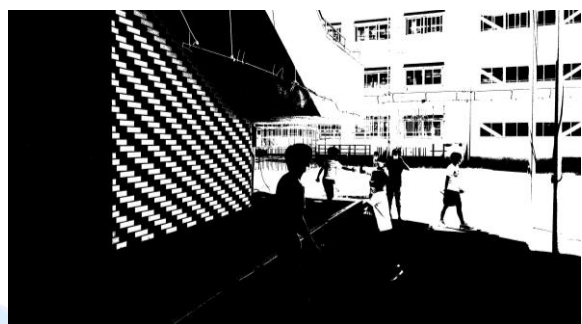
保護者の皆様も、集合場所で見守っていただく際には、子どもたちへの声掛けをお願いします。



### 熱中症対策（ミスト設置）

熱中症対策として、校舎A棟(職員室がある棟)の非常階段のそばに、児童が少しでも涼めるように、ミストが出る設備を取り付けました。

休み時間になると、体を動かして汗をかいた児童がミストの近くまで来て、涼んでいました。運動会の練習も始まっています。熱中症に気を付けるよう、職員も声をかけていきます。ご家庭でも食事や睡眠をしっかりとお声掛けや、水筒の用意等、引き続きご協力をお願いします。



### 総合防災訓練 8/21

この日は、菅田消防出張所の方のご協力をいただき、全校での避難訓練や各学年で防災についての体験活動をしました。暑い一日でしたが、子どもたちは消防士の方々の話を真剣に聞いていました。



全校での避難訓練

どの学年も落ち着いて避難していました、菅田消防出張所の方からも、上手に避難しているとほめられました。



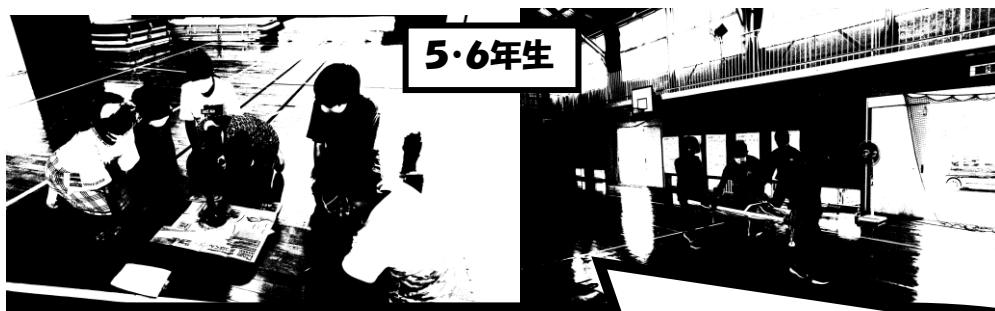
1・2年生

低学年は、過去の大震災、熊本地震や東日本大震災の写真を見ながら、地震が起きた場合、自分の命を守るためにどうすればよいかを考えました。避難訓練では、教わったことをしっかりと思い出しながら、真剣に訓練に参加することができました。



3・4年生

消火器の使い方と震度7の地震のゆれを体験しました。震度7のゆれは少し怖かったですが、少しでも安全に姿勢がとれるよう考えることができました。消防士の方の話を熱心に聞き、緊急時でも落ち着いて行動できるよう学習しました。



5・6年生

災害が起きた時には、まず自分の命を守る「自助」そして助け合う「共助」が大切ということ学びました。今回体験したのは、心肺蘇生法の胸骨圧迫(心臓マッサージ)です。押す場所や力の入れ具合を教わりました。真剣に取り組みました。

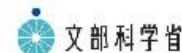


安孫子 裕子先生 主に低学年と個別支援学級の学級補助

川村 まどか先生 主に高学年の学級補助

岩崎 綾先生 ICT 支援員

よろしくお祈いします!



### 保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができているのは、保護者や地域の皆様へ感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多くと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様へ次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながります。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思います。

令和二年八月  
文部科学大臣 萩生田 光一